

フランス国際研究会「子どもと障がい」

木下裕美子

2023 年 3 月 30・31 日にフランス・アンジェ大学にて行われたハイブリッド形式の国際研究会 Colloque international- Enfant et handicap : discrimination, voix et pouvoir d’agir, inclusion (子どもと障がい：差別、声とエンパワーメント、インクルージョン) 参加を通じてフランス学界のひとつを少し覗いてみたい。国内研究会の情報は Calenda やメーリングリスト Polsoc による収集が主流である。年次大会のある大規模国際学会とは異なり、アンジェ大学の研究者 3 名が企画した研究会だ。所属する CNRS (全国研究センター) のひとつである歴史研究グループ TEMOS や Enjeux (リジェリアン地方大学子ども学研究コンソーシアム) などが主催だ。本研究委員会は国内外の研究者 8 名からなる。会員制ではない。ちなみに、博士課程の学生も所属大学をこえた全国研究グループ所属が一般的で院生企画の Journée d’étude (研究報告会) にはこうした活動に近い形式もみられる。

応募テーマは 7 つ、「定義、概念、用語論」「障がい児の社会文化的表象と言説」「子どもの権利、国家と社会政策」「健康、ケア、リハビリテーション」「教育、就学前教育～中学、排除と包摂のはざま」「社会参加、社会化、経験と軌跡」「子どもたちと取り巻く近い人たち」である。2 日間の研究会には、フランス、メキシコ、カナダ、モロッコ、チュニジア、日本からの報告があった。応募テーマの概要提出 (2022 年 11 月 30 日)、研究委員会審査結果発表 (2022 年 12 月 20 日)、採用時は報告概要を一枚提出 (2023 年 2 月中) である。研究会後はフルペーパー提出の意志表明後 (5 月 2 日) 承認を受け、提出 (6 月 4 日)、査読結果修正依頼が 12 月に届く。大学出版会から出版予定だが改めて評価される。刊行日は未定である。